

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > 評価結果ダイジェスト

※評価結果ダイジェスト

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼全体の評価講評 ▼サービス分析結果 ▼利用者調査結果 ▼事業者のコメント

平成20年度

知的障害者入所更生施設[経過措置]

事業所名称	品川区立かがやき園
評価機関名称	有限責任中間法人 日本福祉サービス評価機構
評価者	修了者No.H0302032 修了者No.H0301058 修了者No.H0301059
評価実施期間	2008年12月10日～2009年3月28日

全体の評価講評

▶ 詳細はこちらから

💡特に良いと思う点

- ・地域生活体験型支援プログラムによって利用者が地域生活にスムーズに移行していけるよう支援している
- ・個別支援計画を支援スタッフ全員に徹底して支援のレベルを揃えるよう努めている
- ・日中活動は、日曜日を含めて多様なプログラムを用意して利用者が有意義に過せるよう支援している

✓さらなる改善が望まれる点

- ・利用者のニーズ調査の取り組みを職員の能力向上につなげて
- ・利用者が地域で自立して生活できる場を作るために関係者と協力を
- ・かがやき園と利用者のことを身近な地域の人々にもっと知ってもらい交流する機会を

[このページの一番上へ](#)

サービス分析結果

▶ 詳細はこちらから

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画をいかしながら、利用者に合った自立(自律)生活を送るための支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら ・個別支援計画をもとに3ヵ月ごとに重点目標を設定して支援している ・地域生活移行を目指している利用者には地域生活を実体験できるよう支援している ・自立生活に必要な金銭管理能力を身につけていくよう支援している	
2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら ・日中活動には作業・運動・クラブ・グループ活動など多様なプログラムが用意されている ・プログラムも通り一遍ではなく、利用者一人ひとりの力量に合わせて用意している	
3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A
【講評】 詳細はこちら ・本部の栄養課と協力してバランスのとれた、おいしい食事を提供している ・利用者の個別事情に合わせて刻み食や治療食を提供している ・明るく楽しい雰囲気ですぐに食事ができるよう環境を整えている	
4. 利用者一人ひとりの状況に応じて生活上で必要な支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら ・支援統一表を活用して、利用者の状態やペースに合わせた支援を心がけている	

- ・着替え、掃除、洗濯など身の回りのことはできるだけ自分でやるよう促している

5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- ・健康診断の実施、嘱託医による診察・健康相談などを行い、健康維持に努めている
- ・口腔ケアに力を入れ、歯科衛生士の指導を受けて成果を挙げている
- ・服薬時間ごとに薬を保管し、投薬チェック表で薬と氏名を確認して服薬を支援している

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- ・行事やレクリエーションを毎月実施して利用者が多様な体験ができるように支援している
- ・利用者集会を利用者自身が運営し、意見を出し合う場にするよう支援している
- ・施設の共用部分は利用者が交代で清掃し、清潔な環境を維持するよう努めている

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- ・園連絡会や広報紙により施設の状況や利用者の様子を伝え家族との交流を大切にしている

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- ・地域生活体験型支援プログラムにより地域生活への移行を支援している
- ・福祉施設との連携は行なわれているが、身近な地域社会との馴染みは薄い

評点の内容
▶ [詳細はこちら](#)

[このページの一覧へ](#)

利用者調査結果

▶ [詳細はこちら](#)

※読み上げソフトをご利用のかたへ
パーセンテージの読みあげは「はい」「どちらともいえない」「いいえ」「無回答」の
順番で読み上げられます。

有効回答者数/利用者総数
10/30

■ はい ■ どちらともいえない ■ いいえ ■ 無回答・非該当

1. 食事の時間は楽しみのなっているか	80.0%	20.0%	いいえ: 0.0%	無回答・非該当: 0.0%
2. 日常生活には自由度があるか	80.0%	20.0%	いいえ: 0.0%	無回答・非該当: 0.0%
3. 活動は楽しいか	90.0%	10.0%	どちらともいえない: 0.0%	無回答・非該当: 0.0%
4. 利用者は必要ときに支援を受けているか	80.0%	10.0%	10.0%	無回答・非該当: 0.0%
5. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	70.0%	20.0%	10.0%	無回答・非該当: 0.0%
6. 利用者の気持ちは尊重されているか	70.0%	10.0%	20.0%	無回答・非該当: 0.0%
7. 職員の対応は丁寧か	70.0%	10.0%	20.0%	無回答・非該当: 0.0%
8. 個別の目標や計画を作成する際に、利用者の状況や要望を聞かれているか	70.0%	20.0%	10.0%	無回答・非該当: 0.0%
9. 【個別の目標や計画について説明を受けた方に】 個別の目標や計画に関しての説明はわかりやすかったか	66.0%	33.0%	いいえ: 0.0%	無回答・非該当: 0.0%
10. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	はい: 0.0%	どちらともいえない: 0.0%	いいえ: 0.0%	無回答・非該当: 0.0%

11. 不満や要望を事業所（施設）に言いやすいか	80.0%20.0% いいえ：0.0% 無回答・非該当：0.0%
12. 利用者の不満や要望はきちんと対応されているか	90.0%10.0% いいえ：0.0% 無回答・非該当：0.0%
13. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	20.0%10.0%60.0%10.0%

はい どちらともいえない いいえ 無回答・非該当

[このページの一番上へ](#)

事業者のコメント

* 以下の項目は事業者によって、自ら更新される情報です。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 全体の評価講評

全体の評価講評

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼全体の評価講評

▼コメント

平成20年度

知的障害者入所更生施設[経過措置]

<<前の評価結果を見る

事業所名称	品川区立かがやき園
評価機関名称	有限責任中間法人 日本福祉サービス評価機構
評価者	修了者No.H0302032 修了者No.H0301058 修了者No.H0301059
評価実施期間	2008年12月10日～2009年3月28日

全体の評価講評

💡特に良いと思う点

- 地域生活体験型支援プログラムによって利用者が地域生活にスムーズに移行していけるよう支援している

区の方針に基づき、可能な利用者はできるだけ地域生活に移行できるよう支援している。対象者には地域生活体験型支援プログラムに基づいて、障害特性に配慮しながら日常生活・対人関係・日中活動の領域ごとに個別支援計画を作成し、区内の通所施設での作業体験やグループホームでの生活体験を行い、自立生活に向けた支援に取り組んでいる。このような取り組みを通じて、開所以来4年間(20年3月末現在)で11人の利用者が地域生活に移行している。

- 個別支援計画を支援スタッフ全員に徹底して支援のレベルを揃えるよう努めている

これまでの経過を踏まえて改めて利用者一人ひとりの課題と目標を明確にして個別支援計画を作成することを重視して取り組んでいる。そして個別支援計画に基づいた支援を徹底するために利用者一人ひとりの「支援統一表」を作成し、支援内容を明確にしている。入所施設で時間によって職員が交替し、非常勤職員を含めて複数のスタッフが支援に関わる中で、支援の内容・質を同じレベルに揃えるようにする取り組みである。これと併せて、電子情報システムを改善して利用者情報の共有の強化にも取り組んでいる。

- 日中活動は、日曜日を含めて多様なプログラムを用意して利用者が有意義に過せるよう支援している

日中活動には作業活動(通所施設での軽作業、館内清掃、公園清掃)のほか運動活動(散歩、トリム体操など)、クラブ活動、グループ活動など多様なプログラムが用意されている。クラブ活動には手芸(編み物・小物作り)、スポーツ(公園でウォーキング)、新聞・書道(壁新聞作り・書道)、カラオケがあり、利用者は自分の好きなもの・得意なものを楽しんでいる。日曜日の午後もドライブ・散歩、映画会、お菓子作り・買物などを楽しんでいる。このように利用者がその特性や趣味等に合わせて活動したり、余暇を過せるように支援している。

✔さらなる改善が望まれる点

- 利用者のニーズ調査の取り組みを職員の能力向上につなげて

個別支援計画は利用者のニーズを反映したものになっているかという問題意識から、もう一度利用者のニーズ調査からやり直そうと新たな取り組みを始めている。利用者には意思表示やコミュニケーションが得手とはいえない人も多いので、本人の思いや気持ちを正確にとらえるのには苦労も多いようであるが、この取り組みは貴重である。今回の経験をコミュニケーションスキルの向上や利用者特性に対する理解など職員の能力の向上につなげていくことが望まれる。

- 利用者が地域で自立して生活できる場を作るために関係者と協力を

前記のとおり、利用者の地域生活への移行には積極的に取り組み、成果を上げているが、グループホームなど受け皿となる施設が十分とはいえない状況にある。法人でもグループホームの設置を計画しているが、利用者が地域で自立して生活できる場をつくるために区など関係機関とも協力していくことが期待される。

- かがやき園と利用者のことを身近な地域の人々にもっと知ってもらい交流する機会を

近くの区立通所施設や法人の施設とは密接に連携して活動しているが、町内会など地域の住民組織との関係はまだ薄いようである。利用者が将来、地域で自立して生活していくためには日頃から地域の人々と触れ合う機会を作ることが必要であろう。区立の施設でもあり、かがやき園と利用者のことを身近な地域の人々に知ってもらい交流する

機会を積極的に作っていくことが望まれる。

[このページの一番上へ](#)

コメント

利用者調査は評価者が利用者と個別に面談して聞き取り方式で実施した。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 組織マネジメント分析結果

組織マネジメント分析結果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

- ▼リーダーシップと意思決定
- ▼経営における社会的責任
- ▼利用者意向や地域・事業環境の把握と活用
- ▼計画の策定と着実な実行
- ▼職員と組織の能力向上
- ▼情報の保護・共有
- ▼カテゴリ1～7に関する活動成果

平成20年度

知的障害者入所更生施設[経過措置]

<<前の評価結果を見る

事業所名称	品川区立かがやき園
評価機関名称	有限責任中間法人 日本福祉サービス評価機構
事業評価実施期間	2009年1月10日～2009年3月28日

リーダーシップと意思決定

1. 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	評点
1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	A
2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	A
3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	A
【講評】 詳細はこちら	
- 法人の基本方針を事業計画書に明示して、職員、利用者・家族に説明している - 施設長、役職者は明示された任務と責任に基づいて行動している - 園の運営のしくみや重要な意思決定の内容は職員に周知されている	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

経営における社会的責任

1. 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	評点
1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	A
2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	A
2. 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている	評点
1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある	A
2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	A
3. 地域との関係機関との連携を図っている	A
【講評】 詳細はこちら	
「職員活動指針」等を明示し、人権に関する研修を実施して職員の意識を高めている - 法人の広報活動をいかして、園に身近な地域とのつながりを深めていくことが望まれる - ボランティアの受入れや地域との関係機関との連携に取り組んでいる	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1. 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	評点
1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)	A
2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる	A
3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	A
【講評】 詳細はこちら	
苦情解決のしくみや第三者委員を「園生活のしおり」に明記して周知を図っている	

- 利用者の意向は利用者集会などで把握し、サービスの向上につなげている
- 地域の福祉ニーズや福祉事業の動向を収集し、今後の事業運営に役立てている

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

計画の策定と着実な実行

1. 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	評点
1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	A
2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	A
3. 着実な計画の実行に取り組んでいる	A
2. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	評点
1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	A
【講評】 詳細はこちら ● 「品川区地域福祉計画」に基づき、年度事業計画を策定し、計画的に取り組んでいる ● 事業計画は利用者の状況や地域福祉ニーズ、事業環境等を踏まえて検討されている ● 事故の再発防止・予防をはじめ利用者の安全を確保するために取り組んでいる	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

職員と組織の能力向上

1. 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	評点
1. 事業所にとって必要な人材構成にしている	A
2. 職員の質の向上に取り組んでいる	A
2. 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる	評点
1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	A
2. 職員のやる気向上に取り組んでいる	A
【講評】 詳細はこちら ● 職員の目標を明示して、育成・評価・報酬を連動したマネジメントを行なっている ● キャリア別研修計画、資格取得の奨励・助成等により個人別の研修計画を立てている ● 職員意向調査等により職員の意識を把握し、褒賞制度を設けてやる気の向上に努めている	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

情報の保護・共有

1. 情報の保護・共有に取り組んでいる	評点
1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	A
2. 個人情報とは、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	A
【講評】 詳細はこちら ● 情報はその重要性や機密性によりアクセス権限を設定して管理している ● 個人情報の取り扱いについては文書にまとめ館内に掲示している	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

カテゴリー1～7に関する活動成果

1. 前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A+
【改善の成果】 詳細はこちら ● 新事業体系への移行に向けて支援内容や手引書の見直しなどに取り組んでいる	
2. 前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	評点

1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら 自立支援法に関する職員研修会を開催し、新しい事業について職員の理解を深めている	
3. 前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A+
【改善の成果】 詳細はこちら 運動活動のプログラムを細分化し、利用者が選択できるように改善している	
4. 事業所の財政等において向上している	評点
1. 財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら 収支の改善のために利用率の向上や経費の節減に取り組んでいる	
5. 前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している	A
【改善の成果】 詳細はこちら 利用者集会を設けて、利用者の意見や要望の把握に努めている	
評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > サービス分析結果

サービス分析結果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼サービス提供のプロセス項目 ▼サービスの実施項目

平成20年度

知的障害者入所更生施設[経過措置]

[<<前の評価結果を見る](#)

事業所名称	品川区立かがやき園
評価機関名称	有限責任中間法人 日本福祉サービス評価機構
事業評価実施期間	2009年1月10日～2009年3月28日

サービス提供のプロセス項目

サービス情報の提供	評点
1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している	A
【講評】 詳細はこちら ● 利用希望者向けには園のパンフレット、区のルートを通じて情報を提供している ● 法人が広報紙を行政や関係機関に配布して、かがやき園など施設の情報を提供している ● 利用希望者の見学は随時受け入れ、施設を見てもらい、サービス等について説明している	
評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	
サービスの開始・終了時の対応	評点
1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている	A
2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している	A
【講評】 詳細はこちら ● サービスの基本的ルール、重要事項について説明して、利用者・家族の同意を得ている ● 利用前の生活状況や価値観・生活習慣などを踏まえて本人のペースを大切に支援している ● 利用者が地域生活に移行する際には、移行先への申し送りをして支援の継続に努めている	
評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	
個別状況に応じた計画策定・記録	評点
1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している	A
2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している	A
3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している	A
4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している	A
【講評】 詳細はこちら ● アセスメントにより利用者のニーズ・課題を明確にし、支援している ● 個別支援計画の作成・見直しは利用者・家族の希望を聞いて行い、同意を得ている ● ケース記録には支援内容と利用者の状態の推移を記録し、職員が共有・活用している	
評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	
プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	評点
1. 利用者のプライバシー保護を徹底している	A
2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している	A
【講評】 詳細はこちら ● 利用者に関する情報を外部とやりとりする時は本人の同意を得ている ● 利用者に声をかけをして、できるだけ利用者のサイン(意思)を確認して支援している ● 利用者への対応で職員が心がけるべきことを明示して、点検活動にも取り組んでいる	
評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	
事業所業務の標準化	評点
1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	A
2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	A
3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	A
【講評】 詳細はこちら	

- サービスの基本事項・手順についてマニュアル検討委員会で見直し作業に取り組んでいる
- 事業計画の策定に合わせてサービスの基本事項・手順の見直しを行なっている
- 職員会議での基本事項の徹底など、さまざまな面から業務水準の確保に取り組んでいる

評点の内容
▶ 詳細はこちらから

[このページの一番上へ](#)

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画をいかしながら、利用者に合った自立（自律）生活を送るための支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら	
● 個別支援計画をもとに3ヵ月ごとに重点目標を設定して支援している ● 地域生活移行を目指している利用者には地域生活を実体験できるよう支援している ● 自立生活に必要な金銭管理能力を身につけていくよう支援している	
2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら	
● 日中活動には作業・運動・クラブ・グループ活動など多様なプログラムが用意されている ● プログラムも通り一遍ではなく、利用者一人ひとりの力量に合わせて用意している	
3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A
【講評】 詳細はこちら	
● 本部の栄養課と協力してバランスのとれた、おいしい食事を提供している ● 利用者の個別事情に合わせて刻み食や治療食を提供している ● 明るく楽しい雰囲気ですぐに食事ができるよう環境を整えている	
4. 利用者一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら	
● 支援統一表を活用して、利用者の状態やペースに合わせた支援を心がけている ● 着替え、掃除、洗濯など身の回りのことはできるだけ自分でやるよう促している	
5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら	
● 健康診断の実施、嘱託医による診察・健康相談などを行い、健康維持に努めている ● 口腔ケアに力を入れ、歯科衛生士の指導を受けて成果を挙げている ● 服薬時間ごとに薬を保管し、投薬チェック表で薬と氏名を確認して服薬を支援している	
6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている	A
【講評】 詳細はこちら	
● 行事やレクリエーションを毎月実施して利用者が多様な体験ができるように支援している ● 利用者集会を利用者自身が運営し、意見を出し合う場にするよう支援している ● 施設の共用部分は利用者が交代で清掃し、清潔な環境を維持するよう努めている	
7. 施設と家族等との交流・連携を図っている	A
【講評】 詳細はこちら	
● 園連絡会や広報紙により施設の状況や利用者の様子を伝え家族との交流を大切にしている	
8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている	A
【講評】 詳細はこちら	
● 地域生活体験型支援プログラムにより地域生活への移行を支援している ● 福祉施設との連携は行なわれているが、身近な地域社会との馴染みは薄い	
	評点の内容 ▶ 詳細はこちらから

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 利用者調査結果

利用者調査結果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼調査概要 ▼調査結果全体のコメント ▼調査結果

平成20年度

知的障害者入所更生施設[経過措置]

<<前の評価結果を見る

事業所名称	品川区立かがやき園
評価機関名称	有限責任中間法人 日本福祉サービス評価機構
利用者調査実施	2009年2月2日～2009年2月20日

調査概要

- **調査対象**: 21年1月現在の利用者30人の内、聞き取りが可能な利用者10人(男性5人、女性5人)を対象に実施した。
- **調査方法**: 聞き取り方式
評価者が利用者と個別に面談して、聞き取りを行なった。評価者3人で行なった。
- 利用者総数: 30人
- 共通評価項目による調査対象者数: 10人
- 共通評価項目による調査の有効回答者数: 10人
- 利用者総数に対する回答者割合(%): 33.3%
- 調査項目: [共通評価項目](#)

[このページの一番上へ](#)

調査結果全体のコメント

「はい」と答えた人の比率は概ね70%以上である。総合的な感想でも「大変満足」と「満足」の合計は60.0%である。今回の調査では満足度は男性の方がやや高い傾向が見られる。

[このページの一番上へ](#)

調査結果

1. 食事の時間は楽しんでいるか

はい	8人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
おいしいという声が複数ある。話をする友達がいる、みんなと一緒に食べるなどの声もある。

2. 日常生活には自由度があるか

はい	8人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
テレビを見るという人が多い。

3. 活動は楽しいか

はい	9人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
ドライブが楽しいという声が複数ある。

4. 利用者は必要ときに支援を受けているか

--	--	--	--	--	--	--	--

【コメント】
面倒を見てくれるという声がある。

はい	8人	どちらともいえない	1人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人

5. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか

はい	7人	どちらともいえない	2人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
【コメント】 特になし。							

6. 利用者の気持ちは尊重されているか

はい	7人	どちらともいえない	1人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
【コメント】 特になし。							

7. 職員の対応は丁寧か

はい	7人	どちらともいえない	1人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
【コメント】 特になし。							

8. 個別の目標や計画を作成する際に、利用者の状況や要望を聞かれているか

はい	7人	どちらともいえない	2人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
【コメント】 特になし。							

9. 【個別の目標や計画について説明を受けた方に】 個別の目標や計画についての説明はわかりやすかったか

はい	6人	どちらともいえない	3人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
【コメント】 特になし。							

10. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか

はい	0人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人

11. 不満や要望を事業所（施設）に言いやすいか

はい	8人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
【コメント】 特になし。							

12. 利用者の不満や要望はきちんと対応されているか

はい	9人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
【コメント】 特になし。							

13. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか

はい	2人	どちらともいえない	1人	いいえ	6人	無回答・非該当	1人
【コメント】 特になし。							

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

他年度の評価結果

[平成19年度評価結果](#)

[平成17年度評価結果](#)

福祉サービス第三者評価情報 > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > リーダーシップと意思決定



リーダーシップと意思決定

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

法人の基本方針を事業計画書に明示して、職員、利用者・家族に説明している

法人の基本方針（運営方針とサービス方針）は年度の事業計画書に掲載されており、事業計画書は職員全員に配布されている。職員に対しては基本方針、事業計画を職員会議等で説明して理解を深めるよう努めている。利用者には利用者集会で、家族には園連絡会で資料を配布して説明している。

施設長、役職者は明示された任務と責任に基づいて行動している

法人の運営規程に施設長をはじめ役職者の任務や責任が明示されている。また、園の業務分掌も明示している。施設長、役職者はその任務と責任に基づいて行動している。

園の運営のしくみや重要な意思決定の内容は職員に周知されている

園の運営のために運営委員会、支援担当会議（施設入所と日中支援）、職員会議が設けられ、それぞれの会議の役割も明示されている。園の運営は法人の運営会議、係長会議等と連動して行われている。重要な意思決定の経緯や内容は会議等を通じて職員に周知するよう努めている。入所施設では勤務体制の関係で職員全員が一同に会することができないために朝礼（申し送り）を2回に分けて開催して問題意識の統一や共有に努力している。

[このページの一番上へ](#)

1-1-1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している

評点	A
標準項目	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	○ 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
A+の取り組み	

1-1-2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

評点	A
標準項目	○ 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている
	○ 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している
A+の取り組み	

1-1-3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点	A
標準項目	○ 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている
	○ 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	○ 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 経営における社会的責任

経営における社会的責任

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

「職員活動指針」等を明示し、人権に関する研修を実施して職員の意識を高めている

法人が「職員活動指針」と「より良い福祉会職員を目指して」を策定、事業計画書にも掲載して職員に徹底するよう努めている。品川区福祉施設職員のセルフチェックにより守るべき法・規範・倫理等についての点検活動書にも取り組んでいる。また、人権に関する内部研修を実施して職員の人権に対する意識の向上に努めている。

法人の広報活動をいかして、園に身近な地域とのつながりを深めていくことが望まれる

地域との関係では、法人が広報紙「もみじ」を発行し、ホームページも開設して情報を提供している。園の場合は、建物の上層階が区民住宅となっており、園の備品等の貸し出しを行なったり、防災訓練を合同で行なうなど区民住宅とは一定の関係ができてはいるが、周辺の町内会等との関係はまだ薄い。施設紹介展も開催しているが、地域に浸透しているとはいえない状況にある。今後は、法人の広報活動をいかして、身近な地域住民とのつながりを深めていくことが望まれる。

ボランティアの受入れや地域の関係機関との連携に取り組んでいる

ボランティアにはトリム体操、理容、公園清掃、園の行事などに協力してもらっている。区内の関連福祉施設との連絡会や品川区の地域貢献ポイント事業に参加して、共同活動に取り組んでいる。

[このページの一番上へ](#)

2-1-1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している

評点	A	
標準項目	○	福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している
	○	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる
A+の取り組み		

2-1-2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

評点	A	
標準項目	○	第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる
	○	透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している
A+の取り組み		

2-2-1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点	A	
標準項目	○	事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)
	○	地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている
A+の取り組み		

2-2-2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点	A	
標準項目	○	ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している
	○	ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)
	○	ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている
A+の取り組み		

2-2-3. 地域の関係機関との連携を図っている

評点	A	
標準項目	○	地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している
	○	地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成19年度評価結果
平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

苦情解決のしくみや第三者委員を「園生活のしおり」に明記して周知を図っている

苦情解決のしくみについては「園生活のしおり」に明記して周知を図っている。第三者委員の氏名、住所、電話番号も記載している。利用者一人ひとりの意見・要望等は日常の支援の中で把握して速やかに解決するよう努めている。

利用者の意向は利用者集会などで把握し、サービスの向上につなげている

利用者の意向は利用者集会や個別面談の機会に把握するよう努めている。また、第三者評価における利用者調査も活用している。利用者の意向については職員会議やミーティング等で検討し、サービスの向上につなげている。

地域の福祉ニーズや福祉事業の動向を収集し、今後の事業運営に役立てている

法人内及び区内の関連施設や品川区と情報交換を行い、地域の福祉ニーズの把握に努めている。福祉事業の動向については、行政や社会福祉協議会の会合等に参加して収集している。今期は、区内の関連施設と自立支援法に関して情報交換や勉強会を行い、新事業体系への移行について品川区と協議している。

[このページの一番上へ](#)

3-1-1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)

評点	A	
標準項目	☐	苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている
	☐	利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
A+の取り組み		

3-1-2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

評点	A	
標準項目	☐	利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる
	☐	事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している
	☐	利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる
A+の取り組み		

3-1-3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点	A	
標準項目	☐	地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる
	☐	福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる
	☐	事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 計画の策定と着実な実行

計画の策定と着実な実行

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

「品川区地域福祉計画」に基づき、年度事業計画を策定し、計画的に取り組んでいる

品川区は長期計画として「品川区地域福祉計画」を策定しており、かがやき園はこの計画に基づいて運営されている。運営は区から指定管理者に認定された福栄会が行っており、区の方針に基づいて年度の事業計画を策定している。短期の活動についても、年度事業計画に基づいて計画的に取り組んでいる。

事業計画は利用者の状況や地域福祉ニーズ、事業環境等を踏まえて検討されている

事業計画の一環として主要な会議の年間日程が編成されており、課題の明確化、計画策定の時期・手順等は明確になっている。その過程には職員の参画する会議等が設定されている。事業計画の内容も利用者の状況や地域の福祉ニーズ、事業環境等を踏まえて検討されている。計画の執行にあたっては、重点テーマや利用率目標の設定、経費支出のポイント等の明示など目標を明確にするとともに進捗状況の確認(上半期のまとめなど)をして取り組んでいる。

事故の再発防止・予防をはじめ利用者の安全を確保するために取り組んでいる

事故やヒヤリハットの事例は文書で報告するようにして、事例をもとに再発防止・予防策をまとめている。感染症予防についても各種マニュアルを再確認するとともに定期的に塩素系消毒材による消毒を行っている。災害対策については毎月、避難訓練を実施するとともに消防署とも連携体制を整えている。

[このページの一番上へ](#)

4-1-1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点	A	
標準項目	○	理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している
	○	年度単位の計画を策定している
	○	短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる
A+の取り組み		

4-1-2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点	A	
標準項目	○	課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている
	○	課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている
	○	計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している
	○	計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している
A+の取り組み		

4-1-3. 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点	A	
標準項目	○	計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している
	○	計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている
	○	計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している
	○	計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる
A+の取り組み		

4-2-1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点	A	
----	---	--

標準項目	○	利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している
	○	発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している
	○	再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 職員と組織の能力向上

職員と組織の能力向上

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

職員の目標を明示して、育成・評価・報酬を連動したマネジメントを行なっている

職員の目標として「より良い福祉会職員を目指して」と20年度の「職員活動指針」が示されている。「自己点検」「業務評価」に基づく人事考課制度を実施して、職員の育成・評価・報酬が連動した人材マネジメントを行なっている。採用をはじめ職員の人事は法人の所管である。法人は毎年「勤務意向調査」により職員の希望や意向を把握して育成や配置の参考になっている。

キャリア別研修計画、資格取得の奨励・助成等により個人別の研修計画を立てている

職員の能力向上については、キャリア別の研修計画、資格取得の奨励と助成制度等に基づき、上司面接で本人の希望を聞いて年間の研修計画を立てている。新任者など必要な人にはOJTを実施している。研修の成果については報告書の提出や職員会議での報告で確認するとともに職員が共有できるようにしている。職員には業務分掌により担当する業務を明示し、報告・連絡・相談を適切に行なうよう指導している。収入の減少が職員定数減につながり、職員の研修時間の確保にも影響する状況にある。

職員意向調査等により職員の意識を把握し、褒賞制度を設けてやる気の向上に努めている

毎月、勤務表を作成し、休暇の取得にも配慮するよう努めている。年間公休日120日の確保を優先している状況にある。勤務意向調査や職員面接による職員の意識の把握及び職員褒賞制度の設置等により職員のやる気・働きがいの向上に努めている。

[このページの一番上へ](#)

5-1-1. 事業所にとって必要な人材構成にしている

評点	A	
標準項目	☐	事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している
	☐	事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている
	☐	適材適所の人員配置に取り組んでいる
A+の取り組み		

5-1-2. 職員の質の向上に取り組んでいる

評点	A	
標準項目	☐	職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している
	☐	職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している
	☐	個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている
	☐	職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している
	☐	職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している
A+の取り組み		

5-2-1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点	A	
標準項目	☐	職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している
	☐	職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる
	☐	職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる
A+の取り組み		

5-2-2. 職員のやる気向上に取り組んでいる

評点	A	
		事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マ

標準項目	○	マネジメントを行っている
	○	就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる
	○	職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる
	○	福利厚生制度の充実に取り組んでいる
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 情報の保護・共有



情報の保護・共有



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

情報はその重要性や機密性によりアクセス権限を設定して管理している

情報に関してはその重要性や機密性によりアクセス権限を設定して管理するとともに必要な人が必要な時に活用できるように整理している。特に利用者に関する情報は支援スタッフ全員が共有・活用できるようにしている。情報の更新は適宜行なわれている。

個人情報の取り扱いについては文書にまとめ館内に掲示している

個人情報の取り扱いについては「保有個人情報に関する事項の公表について」という文書にまとめ、館内に掲示している。また、個人情報保護規程(法人制定)も閲覧できるようにしている。職員や実習生に対しては職員会議やオリエンテーションの際に個人情報保護の趣旨を説明して徹底を図っている。

[このページの一番上へ](#)

7-1-1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる

評点	A
標準項目	☐ 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している
	☐ 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している
	☐ 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
A+の取り組み	

7-1-2. 個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している

評点	A
標準項目	☐ 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している
	☐ 個人情報の保護に関する規定を明示している
	☐ 開示請求に対する対応方法を明示している
	☐ 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > カテゴリー1～7に関する活動成果



カテゴリー1～7に関する活動成果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

8-1-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」
- ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」
- ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」

評点	A ⁺
改善の成果	新事業体系への移行に向けて支援内容や手引書の見直しなどに取り組んでいる ①21年4月から自立支援法による新事業体系に移行することを決定し、施設入所と日中活動に対応した支援内容や手引書の見直しなど準備を進めている。②各種情報の共有化を徹底するためにパソコンに入力する情報の見直しを行い、改善を図っている。その結果、職員同士が顔を合わせる機会の少ないという条件(入所施設)の中でも情報交換がスムーズに行なわれるようになりつつある。③人権に関する職員研修を実施して、自分たちの実践を振り返る機会を作っている。

[このページの一番上へ](#)

8-2-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」

評点	A
改善の成果	自立支援法に関する職員研修会を開催し、新しい事業について職員の理解を深めている ①新事業体系への移行に備えて、自立支援法に関する職員研修会を開催し、新事業体系に基づくサービスについての職員の理解を深めている。②歯科衛生士による職員研修を実施して、歯磨き指導の能力の向上を図っている。

[このページの一番上へ](#)

8-3-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」
- ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」

評点	A ⁺
改善の成果	運動活動のプログラムを細分化し、利用者が選択できるように改善している ①運動活動のプログラムを利用者に合わせて細かく分けて、利用者が自分の状況に合わせて選択できるように改善している。②歯科衛生士による歯磨きの指導を実施し(月2回)、利用者の口腔衛生の改善を図り、かがやき園の事例が公の場で報告されるなど成果を上げている。

[このページの一番上へ](#)

8-4-1. 財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

評点	A
改善の成果	収支の改善のために利用率の向上や経費の節減に取り組んでいる ①年間利用率の向上を目標に日曜日の余暇活動など週末のサービス内容の充実に取り組んでいる。②日頃から節電・節水等を心がけ、経費の削減に取り組んでいる。

[このページの一番上へ](#)

8-5-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している

- ・カテゴリー3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

評点	A
改善の成果	利用者集会を設けて、利用者の意見や要望の把握に努めている ①利用者集会を設けて、利用者が自分の意見や要望を出す場として生かすよう支援して、利用者の意向の把握に努めている。②区内の他の障害者施設との懇談会を定期的を開催して自立支援法への移行に向けての情報交換や学習を行なっている。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービス情報の提供



サービス情報の提供



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

利用希望者向けには園のパフレット、区のルートを通じて情報を提供している

利用希望者向けに園としてはパンフレットを作成して情報を提供している。また、区立施設であるので、区の障害福祉課が関係者に情報を提供している。園は利用者向けに「園生活のしおり」を作成しており、見学などの際に資料として提供している。しおりはふり仮名をつけたり、イラストを入れて読みやすいように工夫するとともに平易でわかりやすい表現を心がけている。

法人が広報紙を行政や関係機関に配布して、かがやき園など施設の情報を提供している

法人が広報紙「もみじ」(年3回)を発行し、かがやき園を含めて福栄会の運営する全事業所の活動を紹介している。「もみじ」は品川区をはじめ区内の関係機関等にも広く配布されている。福栄会のホームページも開設して、地域に情報を提供している。

利用希望者の見学は随時受け入れ、施設を見てもらい、サービス等について説明している

利用を希望する人の見学は随時受け入れている。見学者には施設を見てもらうとともに「園生活のしおり」によりサービスの内容等について説明している。

[このページの一番上へ](#)

1-1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している

評点	A
標準項目	○ 利用者が入手できる媒体で、利用者に事業所の情報を提供している
	○ 利用者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている
	○ 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○ 利用者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービスの開始・終了時の対応



サービスの開始・終了時の対応



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

サービスの基本的ルール、重要事項について説明して、利用者・家族の同意を得ている

サービスの基本的ルール、重要事項については重要事項説明書と「園生活のしおり」により利用者・家族に説明している。サービスの内容や利用者の負担金等については利用者・家族の同意を確認し、同意書に署名・捺印してもらっている。利用者・家族の意向は入園面談記録に記入して、支援計画にも反映させている。

利用前の生活状況や価値観・生活習慣などを踏まえて本人のペースを大切に支援している

利用者の支援に必要な個別事情や要望は面談記録とアセスメントシートに記録し、利用者のそれまでの生活状況や本人が大切にしてきた価値観や生活習慣を職員が共有するように努めている。支援にあたっては、利用前の生活を踏まえて本人のペースを乱さないよう心がけている。

利用者が地域生活に移行する際には、移行先への申し送りをして支援の継続に努めている

利用者が地域生活に移行する場合には、グループホームなど移行先に申し送りを行い、支援の継続性に配慮している。また、必要に応じて本人、世話人に対するアフターフォローも行なっている。

[このページの一番上へ](#)

2-1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている

評点	A
標準項目	○ サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者の状況に応じて説明している
	○ サービス内容や利用者負担金等について、利用者の同意を得るようにしている
	○ サービスに関する説明の際に、利用者や家族等の意向を確認し、記録化している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

2-2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点	A
標準項目	○ サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
	○ 利用開始直後には、利用者の不安やストレスを軽減するよう配慮している
	○ サービス利用前の生活をふまえた支援をしている
	○ サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 個別状況に応じた計画策定・記録

個別状況に応じた計画策定・記録

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

アセスメントにより利用者のニーズ・課題を明確にし、支援している

利用者の心身状況や生活状況は利用者ごとにケース記録に記録している。アセスメントシートは、健康、ADL、家事・社会生活・自立、コミュニケーション、日中活動・就労・余暇の項目ごとに利用者の状況、ニーズ、課題と計画を明らかにするようになっている。アセスメントは中間期と年度末に見直しを行っている。

個別支援計画の作成・見直しは利用者・家族の希望を聞いて行い、同意を得ている

個別支援計画は利用者・家族と面談して希望や意見を聞いて作成・見直しを行ない、利用者・家族に説明して同意を得ている。3ヵ月ごとに重点目標を設定し、その達成状況を確認しながら支援している。計画を緊急に変更する場合は、アセスメントを行い、支援スタッフ会議で検討することになっている。

ケース記録には支援内容と利用者の状態の推移を記録し、職員が共有・活用している

ケース記録には具体的な支援内容と利用者の状態の推移が記録されており、支援計画とともに支援スタッフ全員(非常勤職員を含む)が共有・活用できるように電子情報化されている。日勤から夜勤へ、夜勤から日勤への申し送り・引継ぎはタレ・朝礼で行なわれている。

[このページの一番上へ](#)

3-1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点	A
標準項目	☐ 利用者の心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している
	☐ 利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
	☐ アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

評点	A
標準項目	☐ 計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている
	☐ 計画を利用者にわかりやすく説明し、同意を得ている
	☐ 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている
	☐ 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点	A
標準項目	☐ 利用者一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある
	☐ 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点	A	
標準項目	○	計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している
	○	申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重



プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

利用者に関する情報を外部とやりとりする時は本人の同意を得ている

利用者に関する情報を外部とやりとりする時には、その都度、本人の同意を得ている。園の広報紙や掲示物への写真等の掲載についても本人の同意を得て行なっている。2人部屋・4人部屋では一人ひとりカーテンで仕切るようにしてプライバシー保護に配慮している。居室に入る場合には必ずノックするよう職員に徹底している。同性介助を徹底して、利用者の羞恥心に配慮している。

利用者に声かけをして、できるだけ利用者のサイン(意思)を確認して支援している

意思の表出が十分ではない利用者も多いので、日常的な支援の中では声かけをして、できるだけ利用者のサイン(意思)を確認するよう努めている。利用者の価値観や生活習慣に関することも個別支援計画(そのポイントをまとめた支援統一表を含む)に記載してその点にも配慮した支援を心がけている。

利用者への対応で職員が心がけるべきことを明示して、点検活動にも取り組んでいる

「より良い福栄会職員を目指して」において職員の心がけるべきことを明示して、職員に徹底するよう努めている。人権・呼称をテーマに内部研修会を開催して職員の理解を深めるために取り組んでいる。品川区福祉施設職員セルフチェックによる点検活動にも取り組んでいる。虐待等が懸念される場合には、区をはじめ関係機関と連携できるよう体制を整えている。

[このページの一番上へ](#)

5-1. 利用者のプライバシー保護を徹底している

評点	A
標準項目	○ 利用者に関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、利用者の同意を得るようにしている
	○ 個人の所有物や個人宛文書の取り扱い、利用者のプライベートな空間への出入り等、日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮している
	○ 利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

5-2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している

評点	A
標準項目	○ 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている)
	○ 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している
	○ 虐待被害にあった利用者がある場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている
	○ 利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

他年度の評価結果

[平成19年度評価結果](#)

[平成17年度評価結果](#)

福祉サービス第三者評価情報 > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 事業所業務の標準化



事業所業務の標準化



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

サービスの基本事項・手順についてマニュアル検討委員会で見直し作業に取り組んでいる

サービスの基本事項や手順は各種のマニュアルで明確にされている。20年度は見直しの年と位置づけて、マニュアル検討委員会を設置して見直し作業に取り組んでいる。マニュアルを現場で活用しやすくするために電子ファイルに収録して必要に応じていつでも確認できるようにする作業も進めている。

事業計画の策定に合わせてサービスの基本事項・手順の見直しを行なっている

年度事業計画の策定に合わせてサービスの基本事項や手順等についても見直しを行うようにしている。職員には「意向調査」を毎年実施してサービスに関する意見・提案を求め、それを計画等に反映するように努めている。

職員会議での基本事項の徹底など、さまざまな面から業務水準の確保に取り組んでいる

職員会議、支援担当会議等を通じてサービスの基本事項や手順が職員全員に徹底するよう努めている。法人内部研修、外部研修への参加、福祉関連資格の取得等により職員の能力向上に取り組んでいる。事故等の事例を再発防止や予防にいかして利用者の安全確保に努めている。職員に対する指導・助言を日常的に行なっている。

[このページの一番上へ](#)

6-1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点	A
標準項目	☐ 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
	☐ 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている
	☐ 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している
	☐ 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

6-2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点	A
標準項目	☐ 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている
	☐ 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている
	☐ 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

6-3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点	A
標準項目	☐ 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている
	☐ 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している
	☐ 職員全員が、利用者の安全性に配慮した支援ができるようにしている
	☐ 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している
	☐ 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービスの実施



サービスの実施



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

1. 個別の支援計画をいかしながら、利用者に合った自立(自律)生活を送るための支援を行っている

講 評

個別支援計画をもとに3ヵ月ごとに重点目標を設定して支援している

個別支援計画に基づいて3ヵ月ごとに重点目標を設定して、利用者の状況に合わせた支援に取り組んでいる。コミュニケーションは利用者の特性に合わせて絵カード等を使うなど工夫している。

地域生活移行を目指している利用者には地域生活を実体験できるよう支援している

地域生活への移行を目標にしている利用者にはグループホームの生活や通所施設での実習などをプログラムに入れて本人が実際に体験できるように支援している。また、利用者集会を毎月開催して、認定調査についての説明を行なうなど自立生活に必要な情報もこの場で伝えるようにしている。まだ職員に依存する傾向があるが、できるだけ利用者自身が集会を運営する力量を身につけていくよう支援している。

自立生活に必要な金銭管理能力を身につけていくよう支援している

自分で金銭を管理できる人は多くはないが、利用者の状況に合わせて小遣帳の記帳や現金の管理など自立生活に必要な能力を身につけていくよう支援している。

評点	A	
標準項目		個別の支援計画に基づいて支援を行っている
		利用者の特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している
		自立生活に必要なさまざまな情報をわかりやすい方法で提供している
		必要に応じて対人関係のアドバイス等を行っている
		日常の金銭管理については、自己管理できるよう支援をしている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている

講 評

日中活動には作業・運動・クラブ・グループ活動など多様なプログラムが用意されている

日中活動には作業活動、運動活動、クラブ活動、グループ活動など多様なプログラムを用意している。外部講師によるダンスや体操も行なっている。日曜日の午後のプログラムもある。利用者には面談の際に個別に日中活動プログラムの案を示して希望を取り入れている。本人には週間の予定表を渡しておいて当日の朝、ボードに記入したもので確認するようにしている。備品等は倉庫に収納するようにして、作業室は利用者が活動しやすいように、またできるだけ広く使えるようにしている。

プログラムも通り一遍ではなく、利用者一人ひとりの力量に合わせて用意している

プログラムも通り一遍ではなく、運動(散歩)も利用者一人ひとりの力量に合わせて距離等のパターンを設定している。景色を楽しみながら歩く、行先を変えてみるなどの例もある。場合によっては、外には出たくないで施設内の階段の昇り降りをする人もいる。

評点	A	
標準項目		活動メニュー等は、利用者の希望や特性により選択できるようにしている
		利用者が活動しやすい環境を整えている

	○	利用者一人ひとりのニーズに応じたその人らしさが発揮できる活動を用意している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している

講 評

本部の栄養課と協力してバランスのとれた、おいしい食事を提供している

食事は利用者の大きな楽しみであり、おいしい食事を提供するよう努めている。法人本部の栄養課の管理のもとに業務は業者に委託している。毎月、本部栄養課、業者と給食委員会を開催して献立等について検討している。献立は栄養のバランスを考慮し、利用者の嗜好調査の結果や職員の検食結果（毎食）を参考にバラエティにも配慮している。毎週1～2回、昼食の主菜や麺類を選択できるようしている。また、四季折々の行事に因んだ食事を提供して利用者に喜ばれている。

利用者の個別事情に合わせて刻み食や治療食を提供している

利用者の嚥下能力に合わせた食事形態（刻み食など）、治療食（糖尿病や塩分制限）など利用者の個別事情に対応して食事を提供している。食事の際には利用者の状況を見守りながら必要に応じて声かけをするなど支援している。

明るく楽しい雰囲気の中で食事ができるよう環境を整えている

食堂は毎食後、清掃して清潔な環境を整えるよう心がけている。食事時間中は音楽を流すなど明るく、楽しい雰囲気の中で食事ができるようにしている。

評点	A
標準項目	○ 利用者の希望や職員の意見を反映し、バラエティーに富んだ飽きのこない食事を提供している
	○ 利用者が選択できる食事を提供している
	○ 利用者の状態やペースに合わせて食事がとれるよう、必要な支援を行っている
	○ 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

4. 利用者一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている

講 評

支援統一表を活用して、利用者の状態やペースに合わせた支援を心がけている

支援スタッフは個別支援計画のポイントをわかりやすく整理した支援統一表を活用して、利用者の状態やペースに合わせた支援を心がけている。入浴は週4回行い、必要に応じてリフトバスを使用して支援している。

着替え、掃除、洗濯など身の回りのことはできるだけ自分でやるよう促している

着替え、掃除、洗濯をはじめ身の回りのことはできるだけ過度の干渉や保護的援助を避けて、自分でやるよう促している。ゴミの処理は当番制にして利用者が交代で行なうようにしている。

評点	A
標準項目	○ 利用者の状態やペースに合わせて、日常生活上の必要な支援を行っている
	○ 必要に応じて、身の回りのことは自分で行えるよう働きかけている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

講 評

健康診断の実施、嘱託医による診察・健康相談などを行い、健康維持に努めている

健康診断を年2回実施している。また、嘱託医(内科)が月2回、園に来て診察・健康相談を行なっている。日常的には看護師を中心に利用者の健康状態を管理している。家族には健康診断の結果を含めて利用者の健康状態を知らせるようにしている。通院の際には職員または看護師が同行している。

口腔ケアに力を入れ、歯科衛生士の指導を受けて成果を挙げている

月2回、歯科衛生士に来てもらい、口腔内のチェックと歯磨きの指導をしてもらっている。この結果、利用者の口腔衛生の改善が進み、かがやき園の事例が公の場で報告されている。職員も歯科衛生士の指導を受けて歯磨きの指導・支援の力をつけている。

服薬時間ごとに薬を保管し、投薬チェック表で薬と氏名を確認して服薬を支援している

看護師が服薬時間(朝・昼・夕食時、就寝時)に合わせて4つの箱に薬を保管して、投薬チェック表で薬と利用者の氏名を確認し、服薬に誤りのないよう支援している。利用者の体調変化等に対処できるように総合病院との連携体制を整えている。

評点	A	
標準項目	○	健康状態に関して、利用者の相談に応じ、必要に応じて利用者や家族に説明をしている
	○	必要に応じて、通院や服薬等に対する助言や支援を行っている
	○	服薬管理は誤りがなくチェック体制を整えている
	○	利用者の体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

講 評

行事やレクリエーションを毎月実施して利用者が多様な体験ができるように支援している

行事には法人の福栄会まつり、納涼夕涼み会、西大井(施設)合同行事、施設紹介・作品展、クリスマス会、新年会、節分や一泊旅行、日帰り旅行などがあり、利用者が多様な体験ができるようにしている。納涼夕涼み会やクリスマス会の時には会場装飾等の準備を利用者と職員が一緒に行っている。日曜日の午後にもドライブをはじめ週ごとに余暇の企画を立てて実施している。

利用者集会を利用者自身が運営し、意見を出し合う場にするよう支援している

利用者集会を毎月開催して、利用者が自分たちで運営し、意見を出し合う場になるよう支援している。まだ、職員に依存する傾向があるので利用者の主体性・自主性を引き出すよう支援していくことが期待される。日常生活に関するルールについては、例えば洗濯機の使用時間について利用者が相談して決めている。

施設の共用部分は利用者が交代で清掃し、清潔な環境を維持するよう努めている

施設の共用部分は生活訓練を兼ねて毎日、利用者が交代で清掃し、清潔な環境を維持するよう努めている。利用者の居室の掃除、整理・整頓等は自分ですることを原則にして職員がその状況を確認して支援している。

評点	A	
標準項目	○	行事やレクリエーションのプログラムは、利用者の特性や嗜好を考慮し、多様な体験ができるようにしている
	○	室内は、採光、換気、清潔性など居心地のよい環境となるようにしている
	○	日常の生活に関するきまりごとについては、利用者等の意見を参考に見直しをしている
	○	利用者同士が意見を言う機会があり、その意見等を施設運営に反映できるようしくみを整えている
	○	行事やイベントの企画・準備は利用者も参加して行っている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

講 評

園連絡会や広報紙により施設の状況や利用者の様子を伝え家族との交流を大切にしている

家族との交流を大切にして、年4回、園連絡会を開催して家族に対して施設の状況や利用者の様子を伝えている。個別支援計画策定の折には個別面談を行い、計画について説明し要望を聞いている。広報紙「きらり」も年3回、発

行して家族に配布している。家族との交流については、利用者の意思を尊重することを基本にしながら、利用者と家族の状況等から判断して行なっている。

評点	A	
標準項目		家族等との交流・連携に際して、利用者本人の意思を確認し、その意向に基づいた対応をしている
		利用者の日常の様子や施設の現況を家族等へ知らせる手段を整えている
		必要に応じて、家族等への情報提供や支援をしている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

講 評

地域生活体験型支援プログラムにより地域生活への移行を支援している

生活・作業両面からアセスメントを行い、地域生活に移行できる利用者に対しては地域生活体験型支援プログラムに基づいて個別支援計画を作成して、グループホームでの生活体験や通所施設での作業実習を行い、自立生活に向けた支援に取り組んでいる。開設以来4年間で11人の利用者が地域に移行している。

福祉施設との連携は行なわれているが、身近な地域社会との馴染みは薄い

上記のとおり、グループホームや通所施設は地域生活への移行にむけて経験を積む場となっており、その情報も提供されている。周辺の町内会や地域社会とはまだ馴染みが薄く、園の施設紹介展にも地域からの参加者は殆どない状況である。身近な地域とのつながりを作り、利用者が地域の人々と交流できるようにしていくことが望まれる。

評点	A	
標準項目		利用者が入所施設を退所して地域社会で生活できるよう計画的に支援している
		地域の情報を収集し、利用者の状況に応じて提供している
		必要に応じて、利用者が地域の資源を利用し、多様な体験ができるよう支援している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)